

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第216号
令和8年7月15日

令和8年度学力充実会議

開催日：令和8年6月9日（火）

岐阜聖徳学園大学
客員教授 玉置 崇 様

次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実装が求められています。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「主体的な学び」、「対話的な学び」、そして「深い学び」について、岐阜聖徳学園大学 客員教授 玉置 崇様から具体的な実践事例とともに講義をいただき、学びを深めました。

「主体的な学び」とは

- ・常に先生から指示されて行う学習からの脱却
→「自己選択」する機会の確保
- ・自己の学習を振り返って次につなげる場面の確保
→「振り返り」の活用

「対話的な学び」とは

- ・自分一人で完結せず、他者との対話や考えをもとに自己の考えを広げ、深める学習
- ・子どもと子どもがつながる授業

心理的安全性のある
学級づくりが土台

「深い学び」とは

- ・これまでの学習で身に付けた概念や考え方を活用して身に付けた知識・技能を使っている。
- ・「見方・考え方」を働かせ、物事を考えたり、自分の考えを形成したりしている。
- ・相手がどのような道筋で結論に至っているかを考えている。



誰でも明日から実践できる！！

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践事例

講義資料は
コチラから

「自己選択」する機会の確保

子どもたちの主体的な学びを生み出すために、授業の中に1回でいいので、目の前にいる子どもたちが自ら選択する場面を作ってみてください。

小さな「自分で決める」が主体性を育む



まとめ：1日1つ、自ら選択する場を作ることが主体性を育むコツ

※イラストは生成AIを用いて作成しています。

「振り返り」は他の子どもと共有する

子どもの書いた良い振り返りを全体で共有し、教員が価値付けを行い、他の子どもにも「自分も同じようにしよう」と気付かせることが大切です。この繰り返しが重要です。

振り返り 4つのポイント

- ①できるようになったこと（新しく知ったこと）
 - ②友達のいいなと思ったこと
 - ③まだモヤモヤしていること
 - ④次の授業でチャレンジしたいこと
- ※①～③のどれか1つを選んで書く。④は全員が必ず書く。

「対話的な学び」の重要な要素となる「思考の追随」

Aさんに問題の答えとその道筋を述べさせた後、Bさんに「Aさんが説明してくれたことを説明してみよう」と投げかけます。すると、他の子どもたちの行動が「聞く」だけで終わらず、「思考する」、「言語化する」につながります。

思考の道を覗く：深い学びを引き出す「思考の追随」の問いかけ



※イラストは生成AIを用いて作成しています。

Notebook LM